

飯田女子短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

飯田女子短期大学の概要

設置者	学校法人 高松学園
理事長	高松 信英
学 長	高松 信英
A L O	田中 仁
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	長野県飯田市松尾代田610

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
家政学科	家政	60
家政学科	生活福祉	40
家政学科	食物栄養	50
幼児教育学科		100
看護学科		60
	合計	310

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
助産学専攻	5
福祉専攻	20
地域看護学専攻	15
	合計 40

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

飯田女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

長野県南部地区に存在する唯一の短期大学であり、地域社会における高等教育機関の機能を十分に果たしている。

開学の思想は浄土真宗を基本とした宗教教育を行うことであり、それに基づき建学の精神・教育理念の構築をしている。

教育の内容については、多様な学生の要望や地域性に基づく教育課程がほぼ体系的に編成されている。

また、広大な敷地面積を有しており、教育環境として各学科ともに整備された優れた内容となっている。

学生支援体制はよく整備されている。学生募集活動は、広報委員会を中心として行われ、入学までに高校生活を充実したものとすべくフォローアップ資料を送付し、支援している。

生活指導体制としてはアドバイザー制を始めとして、学生委員会、健康管理室、学生寮などが綿密に指導に当たっている。健康管理室では、臨床心理士によるカウンセリングが行われ、メンタルケアの面で万全を期している。学友会活動も活発であり、学園生活は活気に満ちている。

地域社会との連携は活気に満ちており、生涯学習センターを設置し、また地域社会からの要請に対応できるよう専従職員を配置して社会からの要請に対応している。

理事長が学長を兼務し、強いリーダーシップを発揮しており、明確な運営体制となっている。

財務状況は、借入金や学校債などがなく、消費収支も収入超過であり、現状では安定している。

相互評価を実施しており、また、自己点検・評価結果を活用した教育面での授業改善の努力がみられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 学生支援

学習の礎となる学習ガイダンスは、各学科ともに確実に行われ、各クラスにはアドバイザー（指導教員）が配置され、アッセンブリー・アワーなどで綿密な学生指導が行われている。

評価領域 社会的活動

地域社会向けの公開講座、生涯教育講座などを主催するとともに地域の行政、商工業、文化団体などとの交流活動を活発に行っている。

評価領域 改革・改善

将来を託す事の出来る若手教員と理事長が、懇談する機会を保持しており、将来に対する問題点や改善点を討議している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

クラス編成の中には、多数の学生を収容している授業クラスもあり、教育効果の面から適正規模の授業運営を検討することが望まれる。

評価領域 研究

研究日や研究費など、研究環境の充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

親鸞聖人の思想を現代的に解釈し、建学の精神として具現化した情操教育を担っており、成果を上げている。

教育目的は、学生便覧に明確に表現されており、教育白書（2年に1回）を発行する機会ごとに見直しをしている。

教育目的・教育目標については、理事会および教授会で審議検討し、具体的な教育内容に関しては学科会議で討議され、共通的理解を得られるよう努力している。

評価領域 教育の内容

学生のニーズに対応した多様性を有する教育課程であるが、開講科目数が多く、受講生が少数の授業科目も認められる。

授業内容は一冊の講義概要としてまとめられているが、この講義概要はシラバスとしてはやや不完全な状況であり、今後の改善が期待される。

評価領域 教育の実施体制

教育の実施体制としては、優れているものと考えられ、特に、助手が多く細かな指導に配慮している。

図書館として備えるべき蔵書数、閲覧机、椅子などはよく整備されている。図書館司書も専任を2名配置し、図書検索システムもオンライン化されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

授業評価は一部の科目において実施されているだけであり、全授業科目にわたって、授業評価を行うことが望まれる。授業改善は、教員の自主的活動で行われているが、今後、組織的活動として展開されることが期待される。

就職支援活動は、進路委員会を中心として、活発かつ積極的な支援活動を展開し、高い就職率を示している。

評価領域 学生支援

綿密な学生指導が行われ、その結果として、退学者数は少なく、また、学力の低い学生には補講などの処置を行っている。

専任職員を始め進路委員会が就職情報・資料などを作成し、就職・進学情報検索用パソコンを配置し、学生が自由に活用できる状況となっている。

評価領域 研究

研究成果発表手段として紀要が発行されているが、教員数に比して報告数は少ない。学科間あるいは学科内での共同研究には助成金を支給しているが、今後はさらに、教員に対する研究日の確保や個人研究費の充実策についても検討されることが望まれる。

分析機器室なども用意されているが、より一層の研究基盤の整備が望まれる。

評価領域 社会的活動

飯田市教育委員会からの要請で「母と子の親子運動遊び教室」(全11回)を共同主催し、地域に根ざした短期大学として、大きな業績を上げている。

地域活動に意欲的な学生達がボランティアクラブを運営し、文化部、運動部を問わず多くの奉仕活動を行っている。地域からの活動要請も多く、高い評価を得ている。

評価領域 管理運営

教授会は、人事関連事項(任用・昇格など)を審議する専任教授会および各月に行われる拡大教授会(一般協議事項、運営連絡協議事項)とに分かれている。また、短期大学の事務組織が本部機能を果たしているが、全体として、管理運営の諸組織は緊密に連携しており、学内雰囲気は極めて良好といえる。

人事に関する就業規則、給与規則などが完備されており、適正に運用されている。

評価領域 財務

当該年度の予算執行では関係部・課管理者の意見を聴取し、決定時期および伝達は適正に行われている。日常の出納業務も円滑に行われている。

資産および資金に関しては、適正に管理されている。

短期大学に必要な施設設備は、整備されており、管理運用の規定化に従って、充分かつ適正に管理されている。

評価領域 改革・改善

平成5年3月に自己点検・評価委員会規程を策定し、自己点検・評価活動の準備を行い、平成12年から報告書を2年毎に発行している。

学長を委員長とし、学長に任命された各学科からの若手教員（中核教員）7名および教務課長から構成される将来構想委員会を設置し、改革・改善に前向きに努力している。